

## 5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・バレーボールの国際大会で女子日本代表チームが準優勝をしたので、バレー関連の客がたくさん来ている。
	(東海)	やや良く なっている	商店街（代表者）	販売量の動き
商店街（代表者）		販売量の動き	・消費税増税の影響も一段落して、夏季繁忙期に入り販売先にもよるが販売量が増えているところが多い。	
一般小売店〔惣菜〕（店長）		販売量の動き	・客の購入単価が上昇しつつある。	
百貨店（売場主任）		お客様の様子	・今月始めてクリアランスセールも一段落し、売り場も少し縮小しているが、複数の催物では高額な注文販売のスニーカーに多くの注文があり、高額品にも需要があることに驚いている。	
百貨店（売場主任）		お客様の様子	・消費税増税前の駆け込み需要による反動減が薄らぎ、買い控えの程度も前年並みになってきている。	
百貨店（経理担当）		来客数の動き	・台風を含む天候不順による週末の客の出控えで減収となっているが、天候の特殊要因を除く実質ベースで見れば、わずかではあるが前年を上回っている。	
百貨店（営業企画担当）		単価の動き	・高額商品は、消費税増税以降苦戦が続いてきたが動きが出始め、前年割れが続いていた品目が前年並みを確保できるようになってきている。	
スーパー（店長）		単価の動き	・客は、ただ単に安さだけを求めるわけではなく、商品に価値を認めれば、多少価格が高くても購入する傾向となっている。	
スーパー（店長）		販売量の動き	・買上点数がわずかだが増えている。商品単価の上昇もあり客単価は上がっている。来客数の減少は若干あるが、購買意欲は強くなっている。	
スーパー（店長）		販売量の動き	・この数か月は売上高が前年比105%以上で推移している。特に、惣菜や肉類で付加価値の高い商品が買い求められている。	
スーパー（支店長）		お客様の様子	・消費税増税の影響もやや緩和し、販売動向も改善しつつある。	
スーパー（営業企画）		単価の動き	・1品当たり単価の上昇により客単価は前年を上回っており、その結果、売上は前年を上回っている。また上質な商品の動きが良く、品質の高い商品を扱う店舗での数値が好調である。	
衣料品専門店〔紳士服洋品〕（売場担当）		単価の動き	・紳士服の需要では、特にスーツ等の高額品の動きが良く、上向き傾向にある。一方で、肌着などの比較的単価の低い商品に関しては、消費税増税前の駆け込み購入の影響も多少あるのか、いまだ回復傾向が見られない。	
乗用車販売店（経営者）		販売量の動き	・お盆休みのある8月は、例年客足は鈍くなるが週末の雨や台風も重なり、来客数は落ち込んでいる。	
乗用車販売店（従業員）		販売量の動き	・今の景気は良くもなければ悪くもないが、3か月前の消費税増税直後から比べると、ほんの少しではあるが良くなっている。	
住関連専門店（営業担当）		販売量の動き	・民間設備投資の増加及び公共投資による新築工事や大型リニューアル案件等が増加している。しかし、戸建住宅を中心にマンション、住宅の販売が伸び悩んでいる。	
その他専門店〔雑貨〕（店員）		販売量の動き	・ボーナス支給もあってお盆休み期間の客の消費動向はやや良い状況である。	
高級レストラン（役員）	来客数の動き	・都心部では法人需要が堅調である。郊外店でもお盆の営業で前年同月の来客数を上回っている。		
通信会社（営業担当）	お客様の様子	・前月頃から8%という消費税率が受け入れられていると感じる。3か月前の増税直後の動きが鈍かったことと比べれば、良くなっていると思う。		
変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・ここ数か月続いている傾向であるが、客は必要なもの以外は買わない。そのため客単価も伸びない。	
	一般小売店〔高級精肉〕（企画担当）	販売量の動き	・アベノミクスの効果が薄れ、以前よりは良いが、景気は回復途中への踊り場で停滞している。	
	一般小売店〔薬局〕（経営者）	来客数の動き	・天候不順で来客数が減少し売上が伸びない。特に夏場の商品である殺虫剤、制汗剤や日焼け止め等の売上が伸びない。ドリンク剤は例年並みである。夏場の売上を期待していたが厳しい。	

一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・遷宮から続いていた多数の参拝者の来訪は終息している。平常の賑わいに戻り、落ち着きを取り戻している。
一般小売店〔贈答品〕（経営者）	お客様の様子	・例年通りお中元の時期が終わると極端に来客数が減る。3か月前と比べると、業況の良い客からの受注は伸びているが、まだまだ回復していない客もあり、2つの客層が混在している。
一般小売店〔酒類〕（経営者）	来客数の動き	・飲食店への来客数は増えていない。店を選んで利用する傾向が強くなっており、店間で勝ち組、負け組がはっきり出てきている。イベントや催し物を行っている店を選択して客は足を運ぶので、そういう提案がない店からは客がどんどん流れていく傾向である。
一般小売店〔自然食品〕（経営者）	販売量の動き	・セール期間中には賑わいがあるが、それ以外の日の売上高は前年に比べ若干落ちている。
一般小売店〔和菓子〕（企画担当）	販売量の動き	・客の様子からは、消費税増税はある程度仕方ないと思っはいるが、実際に買物してみると増税感を非常に感じるようである。しかし、家電販売で見れば、白物商品に落ち込みはあるが、客は決して価格だけで選んでいるのではなく、良い商品は、高くても納得すれば購入している。
百貨店（経理担当）	販売量の動き	・販売量でみると、商品アイテムを問わず不振である。
百貨店（販売担当）	来客数の動き	・消費税増税後の反動からそろそろ上向き傾向になるかと思っしたが、相変わらず来客数は前年同期を下回っており、回復の兆しが見えない。
スーパー（経営者）	お客様の様子	・中小小売店では悪い状況が続いているが、飲食店には前年実績を上回る店もあるということで、中小事業者全体ではまだ模様状況である。
スーパー（経営者）	お客様の様子	・消費者の大多数は給与の手取り額が上がっていないため、消費税増税の負担が大きく、消費が拡大しない。食料品の売上はまずまずだが、その他の商品は不振で、衣料品等では夏物を次年度に持ち越せないため原価割れで販売して現金化をしている。これではマイナス成長になっていく。国内1、2位を競う企業のショッピングセンターでも、エスカレーターの速度を落としたり電気代の節約を図り、就業者の数もできるだけ減らし、今まで以上の経費削減に努力している。そのため、全体で見ても景気はまだ良くなってはいない。
スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数は、前年の96%前後で推移している。商品価格の消費税抜き表示の効果や、野菜や肉の価格高騰等により、商品1品当たり単価は上昇し、売上は前年並みとなっている。
スーパー（店員）	単価の動き	・安売りの時だけ客が来て、普段の来客数はなかなか増えていない状況である。
スーパー（販売促進担当）	販売量の動き	・今月は、高温、ゲリラ豪雨やその後の気温低下などで食品の販売が不振である。
スーパー（販売担当）	販売量の動き	・足元の販売量が良くない。前年に比べて上がったたり下がったりと日々変化しているので、平均的には大きくは変わらない。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・客単価は前年同期並みを維持しているが、来客数が依然として前年を割っている。加えて今月は台風の襲来など天候にも恵まれていない。
衣料品専門店（販売企画担当）	販売量の動き	・天候不順等が理由かもしれないが、今月は販売量が振るわない。また、消費者からは購買意欲をそれほど感じない。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・エアコンや冷蔵庫の売上は前年同期よりも悪いが、洗濯機や掃除機が売れており、全体としては前年並みである。
家電量販店（店員）	お客様の様子	・消費税増税以降、落ち込んだ状態がずっと続いている。客単価も販売量も回復しておらず、その間の売上高は横ばいである。
乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・客は消費税増税にも慣れ、特に気にしなくなっているように感じる。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税から5か月過ぎているが、販売台数は相変わらず低迷しており前年同月を大きく下回っている。今月も会社目標の75%前後で推移している。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・現在は、客に強く訴求する車がない。夏休みの長期休暇もあり客も強い購入意欲は示さず、店頭の活気もあまりない。

乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・全体的に販売量が減ってきており、目標値に対して80%程と厳しい状況が続いている。例年落ち込む8月という時期を考慮しても低い状況である。工場への入庫数も減少気味であり、点検等でも必要最低限の部品交換のみという要望が多く、売上も減少している。	
乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・販売量の動きとしてはあまり変わっていない。	
一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・例年ではこの時期には来客数が少し伸びるが、今年は伸びを感じない。	
旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・例年の夏に比べても売上は変わらず、景気は良くない。	
旅行代理店(経営者)	お客様の様子	・客は価格を重視するあまり、商品の中身も確認しないで問い合わせをしてくるケースが多い。	
旅行代理店(経営者)	お客様の様子	・天候不良による野菜等の価格高騰に加えて、消費税率の引上げは、かなり家計に影響を及ぼしている。個人客の需要の伸びが思ったよりも小さい。	
旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・天候不順が続く影響で、来客数が減っている。その一方で、国内の団体旅行の申込は、いわゆるプチ旅行といった日帰り旅行(バス利用)で特に増えている。全体的には、例年並みの旅行需要となっている。	
タクシー運転手	お客様の様子	・お盆までは人の動きも良く、暑い日もあって夜の繁華街も客が多かったが、中旬以降は天気不順の影響もあり、夜の客が早く帰る傾向が強くなり売上が伸びていない。	
タクシー運転手	販売量の動き	・例年お盆過ぎは繁華街の出入が少なくなる。前年同時期の状況とほとんど変わりなく、出入は少ない。	
タクシー運転手	来客数の動き	・地元チームが都市対抗野球で優勝し祝勝会等もあったが、それ以外の状況は変わらない。	
通信会社(企画担当)	販売量の動き	・消費税増税後の反動減からは持ち直してきているように感じるが、競争激化とあいまって、新規契約数は依然として伸び悩んでいる。	
通信会社(営業担当)	販売量の動き	・販売量の変らない状況が、現在まで続いている。	
美顔美容室(経営者)	販売量の動き	・今月から年末までホームケアセットのキャンペーンが始まったので、セット商品は売れるが、他の商品にはあまり変化がない。	
美容室(経営者)	お客様の様子	・客の話からは、レジャーにはあまり出掛けていないようで、支出を抑えるため外食も控えている人が多い。	
美容室(経営者)	お客様の様子	・消費税増税の影響が続いており、客の様子も変わらない。	
その他サービス [介護サービス] (職員)	それ以外	・市町村によっては、デイサービス事業への新規参入を認めず現況事業者に限定する動きがある。競争原理が働きにくくなっている。	
設計事務所(職員)	お客様の様子	・景気の良い話は聞かない。国全体として、景気を回復させるような政策が行われていない。	
住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・販売量は相変わらず横ばい状態である。	
住宅販売会社 (従業員)	それ以外	・消費税増税前は駆け込み需要の影響で多忙であり、それと比較すると現在は、増税前の受注残がなくなってきたことは明らかだが、新しい仕事が全くないわけでもなく、業者の話では、今の状況はそれほど悪くないという感じである。	
その他住宅[不動産賃貸及び売買] (経営者)	それ以外	・来客数、契約数は、例年と比べて良くも悪くもない。	
やや悪くなっている	商店街(代表者)	単価の動き	・お盆の繁忙期にデパート数社と合同で催事販売をしたが、客単価が非常に低く売上が伸び悩んでいる。各種団体の会合の際の手土産でも、消費税率引上げの影響で例年より購入単価が落ちている。
	商店街(代表者)	お客様の様子	・住宅関連は、取引先の話聞いてもあまり良くない。
	一般小売店[書店] (経営者)	販売量の動き	・今月は天候不順のため販売量の動きが悪い。
	一般小売店[生花] (経営者)	販売量の動き	・今年の夏はとにかく天気が悪く、全体に商品の動きが鈍い。お盆の時期の売上は前年同期より15%程度落ち込んでいる。
	一般小売店[食品] (経営者)	販売量の動き	・猛暑を始め天候の異常によって、商店街の出入は大きく減少している。例年恒例の夏のセールの結果も、昨年の売上には若干届かない状態である。

百貨店（経理担当）	販売量の動き	・月初めから中旬にかけては、天候不順等の影響もあり販売量は前年割れのペースで推移していたが、後半は販促策を強化して前年同期を超えてきている。しかし、客の購買意欲には力強さを感じられない。
百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・来客数は悪く、客単価も低下している。
百貨店（販売担当）	お客様の様子	・平均的な所得以下の人々は、特別な時期以外の外出を控え、外出先での購買点数と単価も更に減少している。子供向けのイベントもお盆以外は非常に集客が厳しく、収入はイベントへの入場料のみでグッズの販売は減少している。不要な支出に対する引き締めが顕著になっている。
スーパー（店員）	来客数の動き	・今月は台風や大雨により、目に見えて客が少ない。お盆商戦の売上が予想よりも10%ほど低下していることも痛手である。
スーパー（商品開発担当）	来客数の動き	・8月上旬の台風の影響で、販売数、金額ともに下降したまま戻らない。客層の二極化で高付加価値商品も売れてはいるが、全体のバランスを見れば、来客数は減少している。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・中国での食品加工品の騒動で半月ほどの間、ホットフーズへの影響が生じている。
コンビニ（エリア担当）	それ以外	・店舗での購入客単価はやや下降傾向にあり、売上は前年同期を下回っている。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・天気が悪い日の来客数が良くないが、天気が悪くない日でも来客数は伸びていない。徐々に消費税増税の影響が広がっており、単価が高い商品の売れ行きが悪い。
コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数は、前年比約3～5%の割合で減り続けている。
コンビニ（店長）	販売量の動き	・天候が悪く気温が低めであるため、全体的に販売量は低調で、特にアイスクリームが大幅に落ち込んでいる。
衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・客層の二分化がより顕著となっているところに異常な暑さで外出を控える客があり、来客数は激減し、売上も商売を始めて以来最低となっている。
乗用車販売店（販売担当）	単価の動き	・お盆休みということもあり稼働日数も少ない上、競合車種の新型発表により、そちらの方に客足が流れている。
その他専門店〔雑貨〕（店員）	お客様の様子	・客は、購入を検討はしているものの決断には時間を要し、消費マインドは今一つ低調である。
スナック（経営者）	来客数の動き	・今月は全体的に天候が悪い日も多く、お盆休みもあってレジャーへの支出が増えるので、繁華街の人通りは例年以上に少なく、売上は2割以上落ち込んでいる。
その他飲食〔仕出し〕（経営者）	販売量の動き	・消費税率引上げの影響が徐々に現れてきている。単価が高い商品ほど、客の反応が悪い。
観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・宿泊需要は、前年の約100～115%となっているが、昼食・夕食需要が80～90%ということで、やや悪くなっている。昼食・夕食需要の動向は、地域経済に直結して現れるので、この状態が続いていることからやや悪くなっていると見ている。
観光型ホテル（販売担当）	来客数の動き	・宴会需要が、宿泊・一般ともに不調で、2割近くの減収である。一方、宿泊需要は天候の影響を受けつつも個人客が好調で、予想以上の増加である。しかし、事業全体としては100%に届かないのでやや悪くなっていると感じている。
都市型ホテル（経営者）	お客様の様子	・宿泊客は、天候や身の回りの生活の様子等からか直前予約が多くなっている。
都市型ホテル（支配人）	来客数の動き	・宿泊客数は前年同期を下回り、宴会の受注状況も同様である。
旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・今月は各地でお祭り等があるが、今年は天候不順のため非常に人出が悪い。
通信会社（サービス担当）	お客様の様子	・固定電話の解約件数が増えている。
テーマパーク（職員）	お客様の様子	・今年台風や雨が多くお盆の時期にも閉館となるなど、その影響で入館者数が減っている。
テーマパーク（職員）	来客数の動き	・3か月前よりも入園者数の落ち込みが顕著で、客からも外出回数を減らしているという話を聞くことがあり、サービス業にとっては不利な状況である。

		観光名所（案内係）	お客様の様子	・リピーターが少なくなっている。
		ゴルフ場（企画担当）	来客数の動き	・前月に引き続き、今月も入場者数と売上は予算及び前年を大きく下回っている。高速料金の上昇に加えて今月は雨天が多く、自動車を利用する遠隔地のゴルフ場が数字を大きく下げている。
		理美容室（経営者）	来客数の動き	・今月は繁忙な時期のはずであるが、客があまり来ない。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・広告を出しても反応が少ない。低価格の物件しか売れない。
	悪くなっている	一般小売店〔電気屋〕（経営者）	販売量の動き	・天候の影響もあると思うが今月は非常に悪く、景気が回復しているとはとても思えない。客の財布のひもも固い。
		コンビニ（企画担当）	来客数の動き	・8月の来客数は前年並みを想定しているが、集中豪雨や長雨の影響もあって大きく下振れしている。
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・消費税増税の影響を含めて、家電商品販売の冷え込みは顕著である。少子高齢化による生産人口の減少と購買層の高齢化で新製品を購入する客の数が減り、来客数にも影響が出ている。
		パチンコ店（経営者）	単価の動き	・販売量の動きが悪い。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・今月は雨が多いため、客足が悪い。
		理容室（経営者）	お客様の様子	・客からはまだまだ景気の良い話は聞かれず、客足は相変わらず値段の安い店へ流れる。
企業動向関連	良くなっている	窯業・土石製品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・新設住宅着工件数が増加している。
(東海)	やや良くなっている	化学工業（総務秘書）	取引先の様子	・小さな仕事を避け大きな仕事を優先するという仕事を選ぶ動きを感じる。本音では断りたい仕事を避けたいため、見積を高めに出す強気な姿勢を感じる機会が多い。
		窯業・土石製品製造業（社員）	受注量や販売量の動き	・前年まで1品目で当社売上の20%以上を占めていた製品が、最近3か月ほど受注ゼロになっており、足を引っ張っていたが、8月末になって急に在庫全量分の注文が入っている。その他の製品も順調に注文が入っている。
		電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・生産財の需要が旺盛で、生産対応が間に合わず受注残が積み上がっている。国内においては消費税率引上げ後、売上回復もたついているが、輸出は安定しており先行きを含めて大きな不安はない。
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が前年同期比で増加傾向にある。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	取引先の様子	・遠出をしたり旅行へ行っただという話を聞くので、景気は上向いている。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・輸出向け商品の販売が好調である。
		輸送業（エリア担当）	受注価格や販売価格の動き	・配送単価が順調に回復してきている。経費のコントロールもできるようになっている。
		金融業（法人営業担当）	取引先の様子	・自動車関連メーカーを中心とする大手企業では夏のボーナスが増え、地元の百貨店では、時計や貴金属類等の高級品の一部で売上が増加している。
		会計事務所（社会保険労務士）	取引先の様子	・決算期を迎えた法人の中では、黒字となるところが徐々に増加してきている。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	取引先の様子	・取引先も各社でSE（システムエンジニア）要員の調達を進めており、年度内は人材確保が困難になってきている。
変わらない		食料品製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が前年に比べて大幅に減少している。消費税増税後、購買意欲の回復が実感できない。台風や集中豪雨など天候要因もマイナスに作用している。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・足元の状況は、天候不順の影響もあって売上がやや悪い。
		化学工業（人事担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べ、販売量は特に変化は感じられない。スーパー・デパートの客も販売セール等特別な時にしか増えず、レジ待ちの行列も以前と比べて長くない。

金属製品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・物件の動きが活発になっているので、工場の稼働状況は良いが、材料費の高騰や外注依存率が高まるため、利益につながるかが心配である。	
電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・消費税増税後、景気全体として落ち込んだ状態がそのまま続いている。パーラー業界の設備投資はやや減っており、変わらない状態である。	
輸送用機械器具製造業(経理担当)	受注量や販売量の動き	・受注量や販売量は、ほぼ年初計画の予算どおりで推移している。	
建設業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・本体価格が変わらなくても増税による総価格の上昇で、発注者の予算が合わず、留保となっているケースもある状況である。	
輸送業(経営者)	受注量や販売量の動き	・消費財の荷動きが前年並みにまで戻らない状況が続いている。また、住宅関連メーカーの荷動きも低迷したままである。	
輸送業(従業員)	受注量や販売量の動き	・天候不順により週末の行楽やショッピング等の人出が少ないため、全体的に消費関連の荷動きが低調である。また、ガソリンを始め燃料価格の高止まりや高速料金の上昇で、車での外出や遠出が減っている。	
輸送業(エリア担当)	受注量や販売量の動き	・貨物量の状況には変化はない。	
輸送業(エリア担当)	それ以外	・タクシー会社にLPガスを販売している石油販売会社の話では、タクシー業界では乗客数が随分減っているそうである。長距離の客が圧倒的に減り、近場の利用客ばかりが増えて利益の上がる仕事が減っているため、タクシー車両の稼働率も落ち込んでいると聞いている。そのような状況を見ると、景気は良くなっていない。	
金融業(従業員)	取引先の様子	・取引先の様子では、例年に比べて安定しているという声が多い。大手企業では多少上向きのところもあるが、中小企業に関しては、自動車産業においてもあまり良いと言えず、受注単価が下がっている分、仕事量が増えてもなかなか利益につながらないという声が多い。	
金融業(企画担当)	取引先の様子	・個人のみならず法人でも不動産取得ニーズが現れてきており、従来に比べて投資意欲は旺盛になりつつある。	
不動産業(用地仕入)	受注価格や販売価格の動き	・販売価格が伸び悩んでいる。	
不動産業(管理担当)	受注量や販売量の動き	・売上の基となる客からの清掃依頼が伸びない。コストダウンの要求が強く世間で言われるほど景気が良いという実感はない。	
広告代理店(制作担当)	取引先の様子	・消費税増税後の広告受注量は、増税前と比べてもそれほど減少はしていないが、良くもなっていない。	
新聞販売店[広告](店主)	受注量や販売量の動き	・折り込み広告は一時期に比べれば上向きだが、以前のような状態は望めない。折り込みを宣伝媒体として使わなくなった企業も出てきている。	
行政書士 公認会計士	受注量や販売量 それ以外	・貨物の動きは、良くも悪くもない。	
会計事務所(職員)	取引先の様子	・輸出型の大企業は円安による為替差益で好業績ではあるが、実質収益は改善していない。大企業が取引先の中小企業でも、売上高は増加しているものの、原料高や電力料金の引上げ等の影響で収益性は低下している。	
その他非製造業[ソフト開発](経営者)	取引先の様子	・夏休み期間で稼働日数は少ないが、大変忙しい状態が続いている。また、円安傾向でも大きく落ち込むことはない。しかし、競合他社や取引先においては、少し稼働が下がっている傾向がある。	
やや悪くなっている	パルプ・紙・紙加工品製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・天候不順の影響で受注量、販売量も減少しており、燃料費等の高騰等もあり、景気は悪くなっている。
	鉄鋼業(経営者)	受注価格や販売価格の動き	・今年に入ってから、先々の仕事量は増えるので順調に進むという噂が先行してきたが、足元の受注量の増加にはつながらず、期待感だけの空回りに終わっている。
	金属製品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・受注量が減少している。また、引き合いも減少している。
	一般機械器具製造業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・3月頃から非常に高い水準で推移してきた、中国EMS(電子機器の受託生産サービス)企業からの受注量が、落ち着いてきている。

	電気機械器具製造業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・依然として消費税増税の影響から脱していない。	
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量並びに売上高が、継続的に前月を下回るような状況となっている。	
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・マンション、戸建住宅ともに土地や建設費の高騰により販売価格を上げざるを得ない。結果的に、客の予算との乖離を招いている。	
	輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・主要荷主等の荷動きが、前月比マイナス5.5%と悪くなっている。	
	不動産業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・不動産の価格引下げや取引の中止が発生している。	
	悪くなっている	—	—	
雇用関連	良くなっている	—	—	
(東海)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・有料職業紹介への求人依頼が増加傾向にあり、求職者が不足している。
		人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・年度の上半期も後半に入り、下半期の派遣の引き合いが出ている。
		職業安定所（所長）	求人数の動き	・新規求人数が3か月前と比べて28.0%増加している。新規求職者は、前年同期に比べ12.0%減少し、人手不足感がある。お盆休みが明けて転職希望者が目立つ。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・医療・介護分野、建設関連及び小売業関係では、相変わらず人手不足感がある。採用意欲は全産業でうかがわれ、特に今まで採用に慎重であったオートバイ関係の募集に好調さが現れている。また、来春の卒業生を対象とした求人募集においては、昨年を大幅に上回る募集状況となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が緩やかに増加する傾向である。
		民間職業紹介機関（営業担当）	求人数の動き	・引き続き中途採用ニーズは活発で、大手企業の大量採用だけでなく採用をこれまで控えていた企業でも順次活動を始めている状況である。
		民間職業紹介機関（営業担当）	周辺企業の様子	・中小企業を中心とする経営動向は前向きとなっている。中小企業庁や外郭団体が実施する専門家派遣制度の中で、販路拡大や人員確保といった目的の支援内容が増加している。
		その他雇用〔広告代理店〕（求人広告担当）	求職者数の動き	・求人広告の件数や広告に対する反応もそれなりにあって、採用者数なども増えてきているようである。
変わらない	人材派遣会社（社員）	それ以外	・人材派遣の派遣スタッフが自己都合で契約終了した際、後任補充に派遣を発注するのではなく、自社社員が業務を担当して対応するケースが多くなっている。	
	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・求人数は3か月前に比べて102%、前年比で99%となっている。求人市場での有効求人倍率を考えると、厳しい状況となっている。	
	アウトソーシング企業（エリア担当）	求人数の動き	・自動車生産においては、消費税増税前の駆け込み受注残の生産も一段落し、増税後の反動減による新車販売の落ち込みもあり、生産台数はやや減少気味である。しかし人材不足は変わらず続いている。	
	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	雇用形態の様子	・正規雇用の募集は少ないままであり、非正規雇用での募集が相変わらず目立つ。企業の人手不足感はあるが、正規社員の雇用意欲は低い。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・派遣スタッフの求人が多少は減少しているが、製造業以外では派遣が増えているように感じる。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月及び前月に比べて増加しているが、建設業や医療・福祉関係が目立っており、製造業関係の求人が伸び悩んでいるので、現状維持という状況である。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人件数は、3か月前と比較すると7.3%減少している。新規求人数も9.3%の減少となっている。減少の要因としては、3か月前に活発であった飲食業の求人が一段落したためと見られる。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は前月比では減少しているが、前年同月比では増加している。	
やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・3か月前に比べるとやや悪いが、例年並みである。	
悪くなっている	—	—	—	